

2024 年度 学校関係者評価

諮問委員会開催日時：令和6年12月18日（水）10時30分～12時00分

1. 学校関係者評価諮問委員

島根県立大学大学院 看護研究科看護栄養学部 元教授
看護学校非常勤講師、元看護管理者、教員・卒業生
浜田市健康福祉部 地域医療担当課長（代理 健康医療対策課地域医療 担当係長）
浜田医療センター 看護部長
学校職員 10 名

1. 学習に向かい確かな知識と技術、社会性、誠実性を身につけられる教育					平均
1)1年次から学習習慣を身につける	3	3	4	4	3.5
2)物事に立ち向かい継続する力の育成	3	3	4	4	3.5
3)社会性、誠実に物事に取り組む倫理観の育成	3	3	4	4	3.5
2. 機構および地域へ貢献できる看護職員の育成					
1)浜田の地域医療・看護に興味関心が持てるような学習支援および地域・在宅看護論の具体内容・方法の発展	4	4	4	4	4.0
2)地域・実習施設の実習指導者と連携し指導体制の整備と実習指導の質の向上	4	4	4	4	4.0
3)看護師国家試験合格率100%の達成	3	3	3	3	3.0
4)各学年で学力を見極めた支援の実施 目標:卒業率90%以上	4	3	4	4	3.8
5)浜田医療センターや国立病院機構、または県内に貢献できる看護職員を育成	4	4	4	3	3.8
3. 学ぶ意欲があり地域医療を志す入学生の確保					
1)受験生の確保 目標:受験者70名以上	3	4	4	3	3.5
2)ホームページの効果的な運用	4	4	4	4	4.0
3)受験生が受験しやすい体制づくり	3	3	3	4	3.3
4. 教職員が仕事にやりがいを持ち働ける職場づくり					
1)働きやすい職場づくり	3	4	4	4	3.8
2)看護教員・事務職員としての能力開発	4	3	3	4	3.5
5. 看護学校の健全経営					
1)業務のシステム・スリム化による超過勤務削減	3	3	3	3	3.0
2)「3－1)受験生の確保」による入学科・授業料・施設管理料などの徴収	4	4	4	4	4.0
3)補助金の確保:県や市の会議参加、市・県職員との連携	4	4	4	4	4.0
4)コスト管理	4	4	4	4	4.0

評価基準：「4」：大いに達成できる（大いに成果がみられる）
「3」：達成できる（成果がみられる）
「2」：あまり達成できない（あまり成果がみられていない）
「1」：まったく達成できていない（全く成果がみられていない）

(諮問委員からのコメント)

1. 学習に向かい確かな知識と技術、社会性、誠実性を身に着つけられる教育

チューター制、ポートフォリオ、教材整理、メンタルケアなど充実している。カリキュラムに関する満足度調査も非常に高い。綿密なフォロー体制ができている。技術教育についても教員間で事前に打ち合わせしてベストを探して学生に実施している。評価は、具体的な項目で丁寧なされ昨年の評価を反映して成果がでている。

学生ファーストで関わっていることが結果に出ており頼もしさを感じる。学校評価も自己満足に終わらず、多面的（学校相互評価、島根県看護師等養成所指導調査）結果も踏まえて今後の課題の部分を検討されておりさらに期待している。

2. 機構および地域へ貢献できる看護職員の育成

新カリになってから「地域・在宅看護論」で民泊実習を入れて現在も力を入れており、地域愛を育成している。機構病院の看護学校でもクローズアップされて素晴らしい。データには表しにくい、続けていくと売りの一つになる。

母体病院の支援を受けながら、実習によるドロップアウトなく行えている。

看護師国家試験は、全国新卒の合格率より高い合格率を3年ぶりに上回り、一定の成果を得ており次年度も期待できる。島根県内就職率や進学者も増え目標を達成している。

浜田市としては、看護師確保の協力に向けての指標を示してもらえるとありがたい。

3. 学ぶ意欲があり地域医療を志す入学生の確保

全体的に課題がかなり改善されていてすばらしい。情報発信も優れている。例年苦慮した学生確保も、多くの取り組みを着実にすることによって確保できており成果を得ている。

今後も県内、特に西部地域は18歳人口の減少から入学者の確保は困難だと考える。今年度、社会人対象で教育訓練給付金対象校の認定やSNS活動、多くのボランティアへの参加などの取り組みをしている。醸成は数年計画になるが現在の活動を行うことで地域医療を志す入学生の確保につながることを期待する。

市からの支援金のこともあるが、高校人口減少からも社会人入試も検討するとよい。また、辞退率が大幅に改善されているがこの点も維持できる取り組みをするとよい。

4. 教職員が仕事にやりがいを持ち働ける職場づくり

心的安全性の高い職場で生き生きと教職員が働いていることが伺える。年休取得も前々年度の2倍以上である。教員の能力開発については、研究や能力開発プログラムの項目に合わせて評価しながら自分の自己能力開発をしている。

経験年数の若い教員が多いにもかかわらずこの学校運営の実績は高く評価できる。教員の力をお互いに補いながら、各自の課題を充実されることを期待している。

5. 看護学校の健全経営

学生数が定員を満たしており、各補助金の獲得、今年度は厚労省補助金を獲得して運営も素晴らしい。教職員が緻密な学生支援をしながら、オーバーワーク気味ではないかと思うが、これだけの支援が続けられるのは職場の人的環境が良いのだろう。皆が働きやすいことを体感できる環境に更におすすめしていけば良い。最新のICTを使いながらの授業の取り組みは、学生にとっての最善はという事を一番に考えて行われていることが伝わってくる。また、タブレットを使用した会議の様子を見て、先生方の情報共有がとても良いと印象を受けている。